

<単元> **高い土地の暮らし** (教科書5年上 p.32~p.39)

<めあて> 高い土地に住む^{つまごい}孺恋村の人々の暮らしや産業には、どのようなくふうがあるのだろうか。

1 教科書 p.32の「**孺恋村と東京の月別平均気温**」のグラフを見て気づいたことを書きましょう。

(例) 東京と比べ、気温が1年中5~8度くらい低い。

(例) 夏の平均気温が20度までっていない。とても涼しいところ。 など

2 教科書 p.33 を見て、()に言葉を入れ、孺恋村についての説明を完成させましょう。

- ・孺恋村は、群馬県の(**西**)部に位置し、(**白根**)山・(**四阿(あずまや)**)山・(**浅間**)山に囲まれ、低いところでも標高(**600**)m以上の高原にある村です。
- ・孺恋村の中央部には、(**田代**)湖という大きな湖があり、そのまわりには、多くの(**キャベツ**)畑が広がっています。
- ・孺恋村では、毎年7月上旬に(**孺恋高原キャベツマラソン**)大会が行われています。

3 孺恋村の暮らしや産業について、調べてみたいことを1つ挙げましょう。また、教科書以外で調べる方法も考えてみましょう。

【調べてみたいこと】 (例) 高原でのキャベツづくりのくふう 高原での生活の様子

観光客の数 孺恋村の学校の様子 など

【教科書以外の調べ方】 地図帳・図書館・インターネットのホームページ・インタビュー など

4 教科書 p.34~p.35を見て、孺恋村が、どのようにしてキャベツづくりがさかんな村になっていったのかをまとめましょう。

【キャベツづくりがさかんになった孺恋村】

- ・(**火山ばい**)のえいきょうで、土地は(**やせて**)おり、なかなか作物が育たなかった。
- 昭和のはじめごろまで、農家は売る作物が少なく、冬は(**出かせぎ**)に出ていた。



- ・1929年、村の人々が(**共同**)でキャベツをつくり始めた。
- ・1935年、村の中心を通る(**県道**)ができ、交通が便利になる。
- ・1966年、国の(**野菜指定産地**)になる。



現在は、(**全国一**)のキャベツの生産地となった。

5 教科書 p.36～p.37を見て、孺恋村のキャベツづくりのくふうについてまとめましょう。

【キャベツづくりのくふう】

・孺恋村のキャベツづくりでくふうしている所とその理由を、3つ書きましょう。

【くふう①】年に何回かに分けて種まきをする。

【理由①】時期をずらし、何回かに分けて種まきをすることで、長い期間収穫ができるようにしているから。

【くふう②】なえの植えつけや収穫などを一本一本、一つ一つていねいに行う。

【理由②】キャベツを大切にみつかうことで、キズなどが少なく、品質の良い商品として出荷しているから。

【くふう③】収穫したキャベツを、予冷庫で一度冷やしてから、全国に運ぶ。

【理由③】新鮮な状態で全国の市場に運ぶことで、よりおいしいキャベツをお客さんに届けようとしているから。

・「**6** 季節ごとのキャベツの産地」のグラフのように、孺恋村(群馬県)の夏秋キャベツの出荷量が、他の地域に比べて多いのはなぜですか。黒岩さんの話を読んで考えを書きましょう。

キャベツがよく育つ温度は、約 15 度から 20 度。これは、孺恋村の夏の平均気温とほぼ同じ。また、標高が高く、昼と夜の気温差が大きく、雨の量も適度なので、キャベツのさいばいに合っていて、あまくてやわらかいキャベツが育てられるから。

・このように時期をずらし、気候などを生かして作物をつくる方法を何というか答えましょう。

促成さいばい・抑制さいばい

6 教科書 p.38～p.39を見て、孺恋村の豊かな自然をいかした生活について考えましょう。

【豊かな自然を生かした孺恋村】

・「**1**～**4**の写真」は、次のどの特色を生かしていますか。次のア～ウから選びましょう。

ア 高い土地ならではの、涼しい夏の気候を生かしている。

イ 地元で作られている作物を利用している。

ウ 気温が低く、雪の多い冬の気候を生かしている。

1 スキーを楽しむ……(**ウ**)

2 スケートをする小学生……(**ウ**)

3 自転車レース……(**ア**)

4 小学校の給食……(**イ**)

7 学習した孺恋村の生活と自分の生活を比べたり、つなげたりして、自分の考えをまとめましょう。

--